



# AUE News

2011年2月1日

第9号



編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



## 目次

### ● 行事予定(2月1-15日)

### ● トピックス

- ・安城市と包括協定締結
- ・小島雅生展
- ・第1回 One World Festival
- ・2次試験願書受け付け
- ・発達障害研修会

### ・グラウンド時計塔完成披露会

### ・禁煙支援講演会

### ・卒展学内展

### ● お知らせ・報告・投稿

### ・6年一貫教員養成カリキュラムに関する調査

### ・学長ら台湾協定校を訪問

### ・高橋利幸さん中国留学記②

### ・卒業制作展など開催案内

## 行事予定(2月1-15日)

- 1日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
- 2日(水) 教務企画委員会 (13:30～ 第一人文棟会議室)  
学生支援委員会 (13:30～ 第五会議室)
- 3日(木) 大学改革推進委員会 (16:40～ 第三会議室)
- 4日(金) 附属学校運営委員会 (10:00～ 第三会議室)
- 8日(火) 代議員会 (13:30～ 第五会議室)  
教育研究評議会 (代議員会終了後～ 第五会議室)
- 9日(水) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 10日(木) 6年一貫教員養成コース会議 (16:40～ 第三会議室)
- 15日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)

## トピックス

### 安城市と包括協定締結(1/17)

本学と安城市との連携協力に関する包括協定の締結式が1月17日(月)午前11時から、安城市役所で行われた。

包括協定は、本学と安城市が相互の人的・知的資源の交流と物的資源の活用を図り、教育研究、生涯学習、文化、スポーツ、地域産業、まちづくりなどの多様な分野で協力していくのが目的。昨年3月に刈谷市と、同12月に知立市と締結し、今回が3番目。

両者の出席者の紹介、協定の概要説明に続いて、両者を代表して松田正久学長と神谷市長が協定書に署名した。

あいさつで神谷市長は「前々からお願いしていた包括協定をたゞいま、無事に締結しま

した。これまでも先生方の研究会、学生さんの日本語教室や人形劇の上演など連携はありましたが、さらに統一的に進めていきたい。安城市は日本の環境都市を目指し、多角的に環境施策を展





“光る”研究者がいて、お役に立つことと願っています。今後、一層、大学の“知”の貢献をしていくことで、この地域の活性化に役立てていただければと思います」と、今後の協力関係について展望を語った。

### 小島雅生展(1/21-30)

本学卒業生で造形作家の小島雅生さんによる「小島雅生展—ブロンズの呼吸—」が刈谷駅前商店街の「スペース Agua ふれあい広場」で1月21日（金）から開催された。30日（日）まで。



小島さんは1992年、本学総合科学課程総合造形コース（当時）を卒業し、名古屋造形芸術大学美術学科助手を経て、1999年から磐田市新造形創造館金属工房スタッフに。ロウで形作った原型を石膏で覆い固めて加熱し、溶けたロウを流し出して、その空洞に1200度に溶かしたブロンズを流し入れて成型する「ロウ型石膏 casting」の手法で作品を制作。

会場では50点余の作品を展示。月や太陽、人や鳥などのモチーフを組み合わせて独特の世界観を表現したブロンズ作品や、ロウと



鉄、水を組み合わせるとハスの花が咲いたような空間作品もあり、訪れた人の目を楽しませた。

作品を前に小島さんは「金属というと冷たいイメージですが、ロウの原型で作った細かな部分も形にできて、僕の指紋まで形になっています。そんな温かみを感じてもらえたら嬉しいですね」と話した。



30日（日）午後2時から、ワークショップ「銅板のいぶしレリーフづくり」も行われ、参加者が銅板に模様を施して薬品でいぶす作品づくりに挑戦した。

### 第1回 One World Festival(1/22)

学生が主体になって運営する国際イベント「第1回 One World Festival」が1月22日（土）、本学の大学会館で開催された。



このイベントは、学生有志で組織した「One World Festival 実行委員会」が企画。「国際理解・国際交流の重要性が叫ばれる中で、本学においては、外国人に積極的にかかわろうとする日本人学生も、日本人学生との交流を図ろうとする外国人も少ない状況。その状況を打破して、さまざま人とのつながりを広めたいという強い思いから立ち上げました」と実行委員会委員長の山本淳平さん（初等教育・社会専攻4年）。在学中、アメ

リカ留学の経験もある山本さんは同じ思いの仲間とともに、実行委員会を立ち上げ、昨年秋ごろから準備を進め、大学や生協の協賛、刈谷市の後援などを取り付けて実現した。

第1回のテーマは「始～start～」。午前9時からの開会式では、村松常司理事（学生担当）が「初めての開催で、実行委員の皆さんは大変努力してきた。手作り感いっぱいですが、回を重ねるごとに、よくしていけたらいい。楽しんでやってください」と激励した。

同9時30分からは、メインの外国人留学生による「日本語スピーチコンテスト」がスタート。「母国と日本」をテーマに、インド、韓国、中国、台湾、アメリカの10人が順番に演題に立った。日本の家が韓国より寒いのに驚いたこと、日本人学生の「飲み会」の習慣に戸惑ったこと、大好きになった日本の食べ物についてなど、それぞれが感じた日本での大学生活について、時おりユーモアも交えて語った。客席からは、「当たり前だと思っていたことが、そうでないことに気付いた」「ほとんど話せなかった日本語が半年で上達して、頑張って勉強したことが伝わってきた」とさまざまな声が上がった。

審査の結果は次の通り。優勝：ジョ・ナヨンさん（韓国。テーマ「日本語と韓国語の違い」）、新人賞：ブミ ナラヤンさん（インド。「ガンジーの夢の国」）、ユニーク賞：金剣峰さん（中国。「いろいろ驚いた!日本!!」）、審査員特別賞：李ユンさん（台湾。「台湾と日本の飲み会文化」）。4人のスピーチはFMラジオ局「ピッチFM」で2月3日（木）午後9時～10時（毎週木曜の同時間で「KFAラジオ」でも）放送される。

スピーチコンテストのほか、展示ブースでは世界各地の成人式、出産事情について紹介するコーナーや、フェアトレード商品の販売、民族衣装を着ての記念撮影などもあり、約200人が訪れて終日、国際交流・国際理解を深めた。



## 2次試験願書受け付け(1/24-2/2)

国立大学2次試験の願書受け付けが1月24日（月）、本学でも始まった。

1月15日（土）、16日（日）に行われた大学入試センター試験の受験生が、試験結果を基に志望大学を選んで出願したもので、大学には郵送で届けられる。受け付け業務には入試課職員をはじめ、事務職員が日替わりで当たる。職員は届いた封筒を選修・専攻ごとに分けて開封し、別室で待ち受ける職員が必要な書類が入っているか、記入漏れがないかなどをチェック、すべてが整っていれば受験番号を振り分ける、という手順で慎重に行っている。受け付け作業は、願書締め切りの2月2日（水）午後5時到着分まで続けられる。



## 発達障害研修会(1/26)

大学生の発達障害を支援する取り組みの一貫として、本学教職員を対象にした研修会が1月26日（水）午後2時から教育臨床総合センター3階の授業研究室で行われた。教育臨床学講座の三谷聖也講師にレポートをお願いした。

\*

\*

昨今の教育現場では発達障害への関心が高まっている。発達障害というと子どもの問題というイメージがあるが、近年は高校生や大学生の発達障害も注目されている。教育臨床総合センターでは、大学生の発達障害への支援に取り組んでいる。現在、その一環として本学教職員を対象に



全5回のリレー講座「発達障害を有すると思われる学生への支援・対応について」が開催されている。1月26日開催の第4回は、障害児教育講座の飯塚一裕先生を講師に迎え「発達障害の特性を理解し向き合うためのヒント」と題して講演をしていただいた。

飯塚先生は、専門用語をあまり使用しない平易な言葉で重要なポイントを過不足なく説明された。その話しぶりからは先生の優しい人柄がにじみ出ていた。特に印象

に残ったのは大学という教育機関の特徴として「構造化の度合い」を考慮することである。小中高等学校と比べて大学教育では時間割や授業形態、レポート課題などの曖昧さに困惑する学生もいるという。発達障害を有すると思われる学生の感覚の特異性を知り、彼らに伝わる言葉で指示することの重要性が指摘された。

今回の参加者は10名。いずれも常連参加の意欲の高い顔ぶれで、後半の討議では活発な意見交換がなされた。さて次回はシリーズ最終回。教育臨床学講座の中川美保子教授にバトンをつなぎ締めくくる。演題：「思春期・青年期の心について一理解されない言動に隠された思いとは一」。日時：2011年2月16日（水）午後3時～4時。場所：教育臨床総合センター3F。最終回のみの参加も大歓迎。詳しくは教育創造開発機構運営課教育臨床担当 TEL0566(26)2316まで。



（教育臨床学講師 三谷聖也）

### グラウンド時計塔完成披露会(1/27)



2008年10月に通学途中の交通事故で亡くなった倉地亜由美さん（当時：国語・書道専攻4年）のご両親からの寄付で、グラウンドに時計塔が設置され、1月27日（木）午前11時から関係者が集まって完成披露会が行われた。

亜由美さんの思いを何らかの形で大学に残したいとの意向で、2009年2月に本学にご両親から本学に200万円が寄付された。大学では、そのうちの100万円を附属図書館への図書寄贈として、同年4月に214冊の書籍を購入。100万円をスポーツ振興にと、さまざまな用途を検討し、在学中にラクロス部に所属していた亜由美さんも利用していたグラウンドの時計塔設置にあてることにした。

時計塔の高さは約5m20cm。電波時計で、太陽電池を備え、日没後6時間は文字盤に照明がつく。披露会には松田正久学長ら20人余が参列して、亡き亜由美さんを偲びながら、時計塔の完成を見届けた。

ラクロス部の部員たちは「これまでグラウンドに時計がなく、練習時間の配分など不自由でしたが、便利になります。先輩の思いを胸に、練習に励みます」と時計を見上げた。

この日、ご両親は出席されなかったが、「いつまでも亜由美がラクロスのスティックを持ってグラウンドを駆け回っているような思いがいたします。いずれそっと娘に会いに行くような気持でプライベートで見せていただきます」とのメッセージが寄せられた。

### 禁煙支援講演会(1/27)

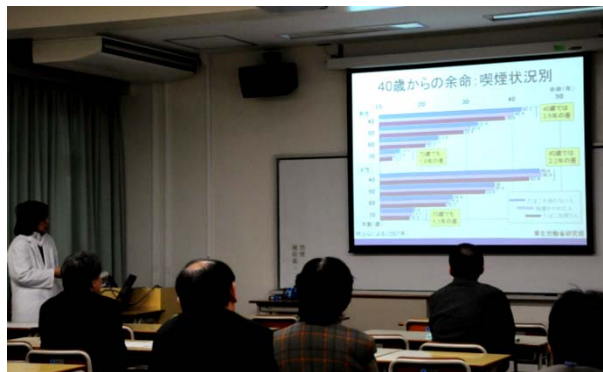
2011年4月からのキャンパス内全面禁煙に伴う活動第二弾として、保健環境センター校医・

産業医の久永直見教授による禁煙支援のための講演会が、1月27日(木)午後、第一共通棟3階306教室で開催された。学生・教職員の喫煙者を対象にした説明会で、教職員16人が参加した。

久永教授は「これでタバコをやめられる」をテーマに約1時間15分講演。予定時間を15分延長し、参加者からの質問に対しても丁寧に説明をした。

講演では、①「公共空間全面禁煙への流れ」②「あなたの知らないタバコの健康影響」③「禁煙補助薬の有効な使い方」の三つを題材に、タバコの健康へ害の恐ろしさと、健康の大切さについて訴えた。参加した教職員の中には喫煙をしない職員も見られたが、全員が熱心に聞き入っていた。

久永教授は説明の終わりに喫煙者に対し禁煙方法の一部も紹介。「センターでは、喫煙者が自主的にグループをつくり、各人が禁煙ガムまたは禁煙パッチのどちらかを選ぶ12週間の禁煙支援を指導します。希望する方はセンターへ相談してください」と参加者に呼び掛けた。



### 卒業制作展学内展(1/31-2/3)

卒業を控えた現代学芸課程造形文化コースの4年生の卒業制作作品を発表する「卒展」の学内展示が1月31日(月)から、大学会館で始まった。2月3日(木)まで。

会場には、同コースの陶芸、染織、ガラス、金工、美術史の各専攻の24人の学生が制作した卒業制作作品とパネル、計約60点を展示。羊毛や綿糸の絡む特性を表現した長さ3m70cm×幅3mの大作、手捻りで細かなパーツを積み上げた陶芸作品、繊細なガラス作品、シルバーやブロンズをロウ型石膏製造した金工作品など、多彩な作品が並んでいる。



これらの作品は、同展のために昨年10月ごろから制作を開始。これまで学んだ技術や知識の“集大成”とあって、いずれも手間を掛けた力作ぞろい。

学内では2月3日(木)まで、午前10時～午後5時まで公開。その後、2月15日(火)～20日(日)には名古屋市東区の

「名古屋市民ギャラリー矢田」で、美術・大学院美術専攻と合同の「卒業・修了制作展」で展示される。



### お知らせ・報告・投稿

#### 6年一貫教員養成カリキュラムに関する調査(投稿)

1月12日(水)、日本教育大学協会の研究助成に基づく「6年一貫教員養成カリキュラムに関する研究」の一環として、文部科学省へ訪問調査を実施した。本学からは、土屋武志、中野真志、江島徹郎、杉浦淳吉の教員4名、木下潤一、柴山陽佑の大学院生2名が参加した。文部科学省側からは、渡邊倫子教員養成企画室長、日向信和大臣官房教育改革調整官はじめ7名の列席があり、会議室において午後2時から4時まで率直で活発な意見交換を行った。

この意見交換の間、渡邊室長、日向調整官が、我々教員の意見よりも、院生たちの意見に熱心に耳を傾け、メモをとる姿が印象に残った。訪問後の院生の感想では、彼らもそのことを実感し、感銘を受けたという。また、今後の6年一貫コースの活動、大学院での勉学や研究、将来、



教師になった時の教育実践に対してより確かな展望や願いをもつ良い経験になったと語っていた。院生たちは、シナリオが一切なかったので緊張してはいたが、尋ねられた質問に対して自らの意見を明確に述べる事ができていた。このことは、これまでの本学6年一貫教員養成コースの取り組みの確かな成果の一つといえよう。

渡邊室長からは、本学における6年一貫コースの目指している教員養成が、従来の大学院と教職大学院との間に位置し、今後の大学院改革の良いモデルになるのではという意見があった。また、日向調整官からは、学部と大学院との能力にどのような違いがあるのかを今後、修了生の勤務する教育委員会等と協働で継続的・実証的に成果を理論化して欲しいというアドバイスがあった。6年一貫教員養成カリキュラムに関する研究を継続し発展させる必要性を再認識した文部科学省への訪問調査であった。

(生活科教育教授 中野真志)

### 学長ら台湾協定校を訪問(報告)

1月20日(木)から23日(日)までの3泊4日の日程で、松田正久学長並びに技術教育の宮川秀俊、同清水秀己両教授、稲吉隆教育創造開発機構運営課長が、本学協定校で台湾にある国立彰化師範大学と国立聯合大学、協定締結を検討している国立台湾師範大学の3校を訪問した。

この訪問は、当初国立聯合大学の記念式典に参列するとともに、国立台湾師範大学との学術交流協定締結に向けた協議を行う目的で、12月上旬に計画されたが、学長の公務で延期となっていた。一行は、20日に国立台湾師範大学を訪れ、張國恩(Chang Kuo-En)国立台湾師範大学長から歓迎の挨拶を受けた後、同大学のプロモーションビデオを鑑賞した。松田学長からは、本学の概要及び台湾の大学との交流について紹介があり、今後の両大学の学術交流協定締結に向けた意見交換が行われた。



同大学からは、張学長をはじめ、各部局長等が列席され、和やかな雰囲気の中で意見交換が行われた。その後の質疑応答では、参加された部局長の私見を交えた議論が展開され、大いに盛り上がった。

懇談会后、同大学の学生(ボランティアによる国際交流アシスタント)の案内で、キャンパス内の施設を見学した。特に、図書館の近代的な設備の充実ぶりには圧倒された。

21日は、台北市から新幹線で台中に移動した。台中市駅には、国立彰化師範大学の国際交流担当で研究開発部長の黄宜正(Huang Yi-Cheng)先生と国際交流室の張雅婷(Chang Yating)さん、そして福岡教育大学からの交換留学生として在籍している日本人の学生2名が出迎えてくれた。その後、有名な景勝地の日月潭に行き、湖畔で昼食をとった後、新設されたゴンドラ(スキー場のゴンドラと同型、ちなみに設置社はオーストリアの会社)に乗り、近辺を散策して国立彰化師範大学へ向かった。

国立彰化師範大学では、我々の訪問に対して、中庭に「歓迎 日本愛知教育大学」なる大きな垂れ幕が飾られるなど、盛大な歓迎を受けた。歓迎のセレモニーは、同大学の会議室で行われ、張惠博(Chang Huey-Por)学長をはじめ、先月本学を訪問された部局長等が列席された。会議室中央の壁には、歓迎の文字とともに、我々訪問者4名の名前が入った横断幕が飾られていた。通訳は、九州大学の大学院を出られた地理学の曾宇良(Tseng Yu-Liang)先生が流暢な日本語でな

された。両学長の挨拶に続いて、プロジェクトで国立彰化師範大学の紹介が行われ、始終和やかな雰囲気の中で進められた。

その後、宿泊する台中市内のホテルへ移動し、張学長の歓迎の挨拶と乾杯後、双方の関係者による懇談会が盛大に催された。

22日には、国立聯合大学の李隆盛（Lee Lung-Sheng）学長が、ホテルに迎えに来られ、同大学の公用車で、苗栗市にある国立聯合大学に向かった。台中市内からは、高速道路を利用して、約1時間の道のりであった。

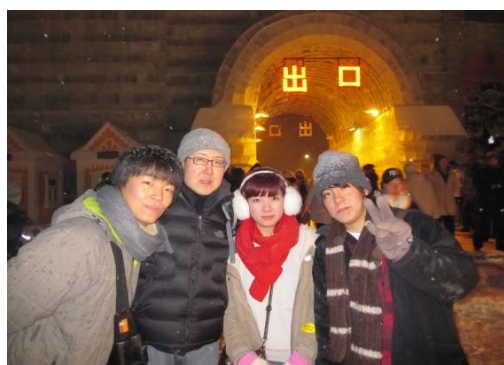
国立聯合大学のキャンパスは高台にあり、苗栗市が一望できる閑静で、とても良い環境だった。現在、新しいキャンパスを現在の場所から、車で約5分のところに建築中であるとのことで、案内していただいた。2棟は既に完成されて、部分的には使用されていた。建物の中を見学させて



いただいたが、いずれの部屋でも最新の機器や設備に、本学関係者からはため息が漏れた。なお、新しいキャンパスは、約90haのことなので、本学のキャンパスの2倍近い広さである。今後、2年間でさらに9棟の建物を建てる計画であり、すべてが台湾政府から建設資金が支出されるということであった。日本の国立大学に比べ、政府の手厚い保護のもと、教育に対して資金を投資しているのを羨ましく感じた。

（教育創造開発機構運営課長 稲吉隆）

## 高橋利幸さん中国留学記②(投稿)



旅行に出掛けました。旅行中、西安にある兵馬俑博物館を訪れたときに、ふとしたことで現地の大学生達と仲良くなって2日間も西安の街を案内してくれたり、僕がひどく咳をしていたのを心配してくれて家から薬を持ってきてくれるなどとても親切にしてもらいました。その子達とは現在でも毎日のようにメールで連絡を取り合っています。中国人は日本人に対してあまりよく思っていないと考える日本人は少なくないと思います。私も留学前は中国人についてあまりいいイメージはもってなかったです。しかし、留学中に多くの

1月6日（木）でようやく半期が終わりました。あっという間の半年でした。年越し、正月はクラスメートやルームメートとパーティーをして、12月30日（木）、31日（金）は最近日本のテレビ番組で取り上げられたハルビンの氷祭りに行ってきました。ハルビンはとっても寒く、気温はなんとマイナス25度！日本の最低気温はハルビンや留学先の長春の最高気温と20度近く違います!!まつ毛や髪が凍ります。

テストが終わった次の日から9泊10日で中国国内



中国人の人と話す機会がたくさんあり、日々交流していくうちに、日本の漫画、小説、化粧品などの影響からか、中国の若者はホントに日本が好きの人がたくさんいて、若者に限らず中年の人達も日本が好きの人がたくさんいるのだと感じました。中国人の人達と会話をしたりするときに漫画の話になります。中国でも小新（クレヨンしんちゃん）は人気です。ただ人気があり過ぎるので、ゴールデンタイムは日本の漫画放映は禁止だとか…。



旅行中に思ったのは、中国では旅行ガイドなどは全くあてにならないということです。開園時間・閉園時間は直接行ってみないとわからなかったり、チケット売り場が知らぬ間に別の場所に移動していたりなど…ハプニングに見舞われることが多々ありました。あと中国は領土が広いので料理の味が、それぞれの地域によって大きく異なることも発見しました。その街を訪れないと食べられない料理がたくさんあるので、今回の旅で長春ではこれまで食べられなかった料理、日本にもあるけれど全

く味が異なる料理をたくさん食べました。

(現代学芸課程国際文化コース2年 東北師範大学留学中 高橋利幸)

### 卒業制作展など開催案内

#### ◆「愛教大の造形展」

2月5日(土)～13日(日) 月曜休館。入場無料。

愛知県陶磁器資料館〈TEL0561(84)7474〉

・造形文化コース陶芸専攻卒業生と現役の学生によるグループ展。

#### ◆「ガラスでデキルコト」

2月5日(土)～13日(日) 10:00～17:00 入場無料。

刈谷駅前商店街「スペースAqua ふれあい広場」〈TEL080-1568-2656〉

・ガラスコースの学生によるグループ展。

#### ◆ランチコンサート「冬の特別演奏会」

2月9日(水) 12:30～13:30

本学附属図書館2階「アイ♥スペース」

・音楽教育4年生による声楽、ピアノ、管楽器演奏、作曲作品発表。

#### ◆卒展—書道専攻8期生・書友会

2月15日(火)～20日(日) 9:30～19:00 (最終日は16:00まで) 入場無料。

名古屋市博物館〈TEL052(853)2655〉

・書道専攻・書友会の卒業生、書友会4、3年生の作品、賛助作品を展示。

#### ◆卒業・修了制作展—美術・造形文化・大学院美術専攻

2月15日(火)～20日(日) 9:30～19:00 (最終日は17:00まで) 入場無料。

名古屋市民ギャラリー矢田〈TEL052(719)0430〉

・美術、造形文化、大学院美術専攻の卒業・修了生の作品を展示。

### 編集後記

1月22日に行われた「One World Festival」は素敵な催しでした。本学には現在86人の留学生がいますが、普段はなかなか交流することがないので、彼らの話は新鮮でした。昨年秋にウェルカムパーティの取材で出会った、アメリカからの留学生スコット君も日本語スピーチコンテストで発表。日本語がほとんど話せなかったのに、ずいぶん上達していて感激。「冬の子どもまつり」にも積極的に参加したり、各地を旅行して、日本の生活や愛教大になじもうと努力してきた成果でしょう。来年のFestivalはさらに進化するはず。今から楽しみです。(K)

### 投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール: [kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者:総務担当理事 折出 健二